

# 平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 豊新小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、6 年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- （1）義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3）以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・豊新小学校では、6年生 68名

## 3 調査内容

- （1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・算数 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・算数 B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・身についておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など</li></ul>

- （2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

# 平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

豊新小学校

児童数

68

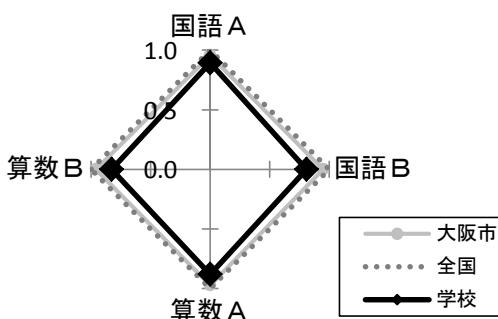
## 平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	65.1	44.9	68.9	48.1
大阪市	69.7	52.7	76.0	55.8
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

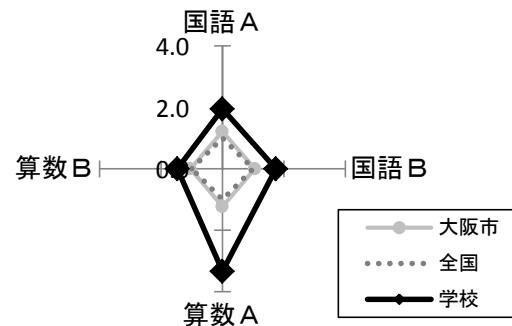
## 平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	4.5	16.0	3.0	6.3
大阪市	2.8	9.7	1.1	4.5
全国	2.3	9.2	0.9	4.3

### 平均正答率(対全国比)



### 平均無解答率(対全国比)



## 結果の概要

国語・算数それぞれ、A問題・B問題ともに、大阪市および全国平均より低い結果となったが、昨年度に比べ、全国平均との差は縮まっており、特に算数のB問題においては5ポイント以上縮まった。得点分布を見ると、平均点層の人数が少なく、下位層に人数が多くなっている状況であった。国語では、内容をとらえて文章を読む力や、理由を明確にして自分の考えを書く力に課題があり、算数では、数や図形などの関係やきまりを見つける力や、学習したことを生活や学習の様々な場面で活用する力に課題があることがわかった。また、無回答率についても、大阪市および全国平均より低い結果となったが、全国平均との差は縮まっており、特に国語のA問題で6.9ポイント、算数のB問題で4.2ポイントと大幅に縮まった。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

基礎的・基本的な力を確実に定着させることを目標に、漢字の書き取りや計算ドリルなどの反復学習に取り組んでいる。また、発表やグループ学習を随所に取り入れるなど、学習展開に工夫をしている。個に応じた指導としては、学習活動支援員による学習サポート、放課後の学級での個別学習や、「放課後ステップアップ事業」などを実施し、少しずつではあるが、成果が表れてきた。読書活動では、全学級、週1時間は図書室を利用できる時間を設定するとともに、地域絵本サークルの朝の「絵本読み聞かせ」も月1回のペースで続け、読書習慣の形成を図っている。特に、今年度からは思考力・判断力・表現力の育成を目指して、研究目標を「言語活動の充実」とし、子ども達の学力向上および生きる力の育成を図っている。

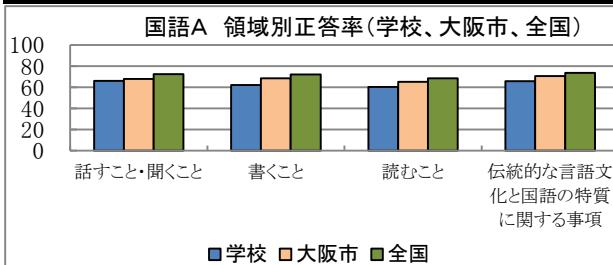
## 【国語】

### 結果の概要

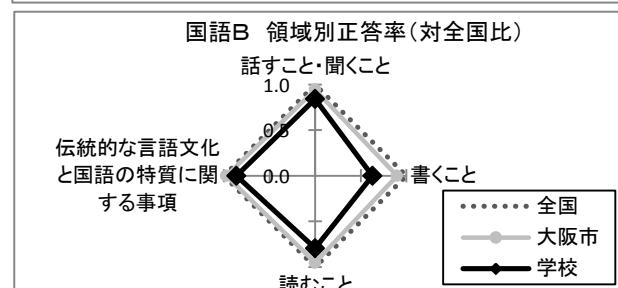
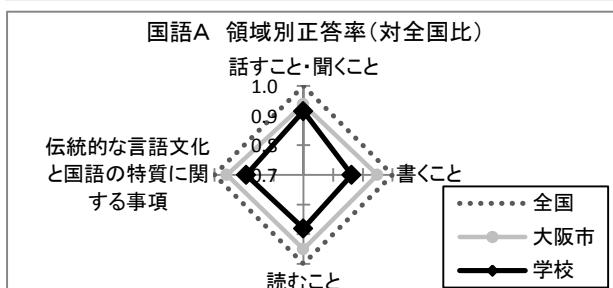
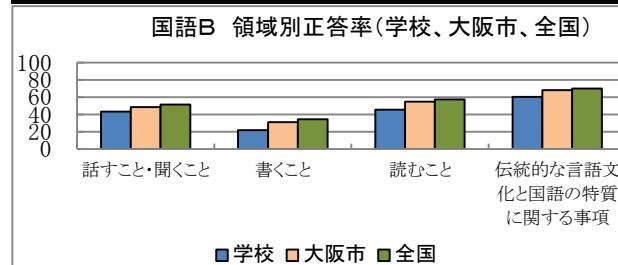
A問題、B問題とともに大阪市および全国平均を下回っている。また、領域別では特にA問題では「書くこと」「読むこと」、B問題では「書くこと」に課題がある。

児童質問紙の「国語の勉強は好きですか」の問い合わせ、「当てはまる・どちらかといえば」を合わせても50%を下回ってしまった。

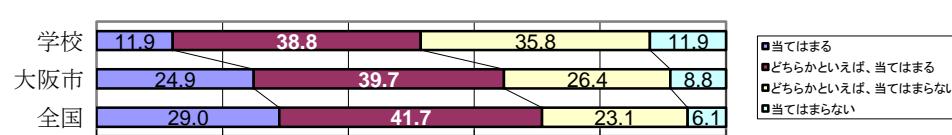
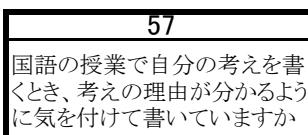
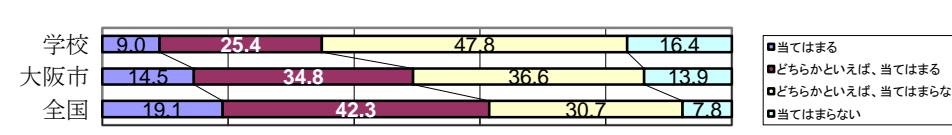
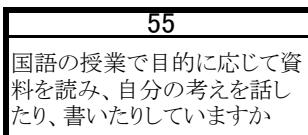
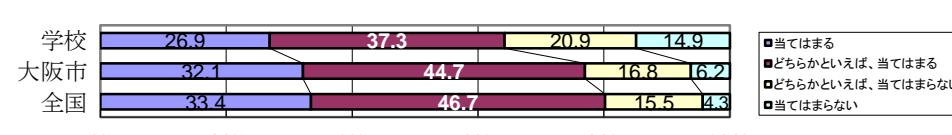
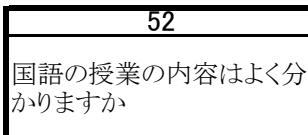
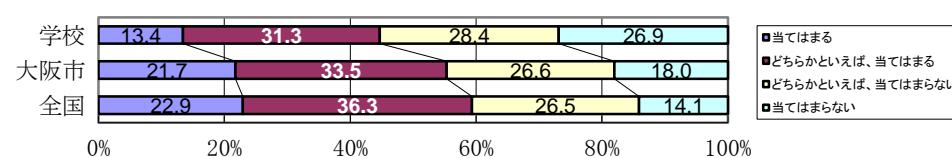
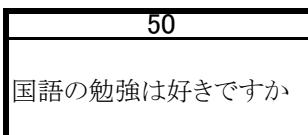
A 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	66.2	67.9	72.4
	書くこと	3	62.3	68.5	72.2
	読むこと	2	60.3	65.1	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	65.8	70.6	73.7



B 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	43.1	48.3	51.2
	書くこと	3	21.6	30.9	34.4
	読むこと	7	45.6	54.6	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	60.3	67.9	69.8



### 国語に関する「児童質問紙」



### 成果と課題

朝の「絵本の読み聞かせ」や図書室の積極的な利用などにより、読書に対する興味・関心は高いものの、「国語が好き」という児童は過半数を切っている。文章をしっかりと読み取り、情景描写や登場人物の相関関係を理解したり、複数の資料から必要な事項を選び出し、自分の考えを簡潔に書く力が必要である。

### 今後の取組

反復学習などで、より一層、基礎的・基本的な力の定着を図るとともに、言語活動を充実させ、自分の考えについて根拠を明確にして書く力や話す力、相手の意見も聞きながら、自分の考えを相手に上手く伝えられるようコミュニケーション能力も育む必要がある。

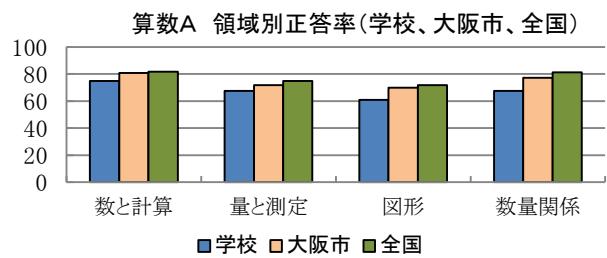
## 【算数】

### 結果の概要

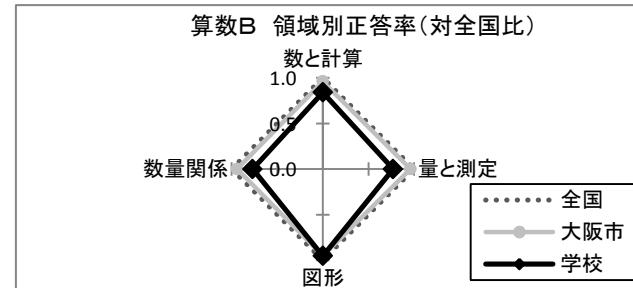
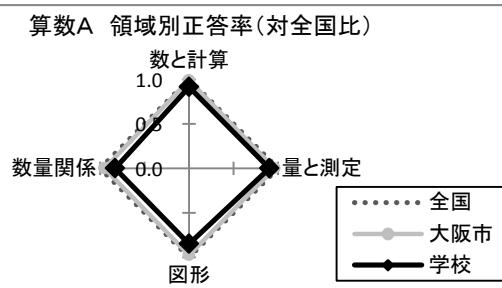
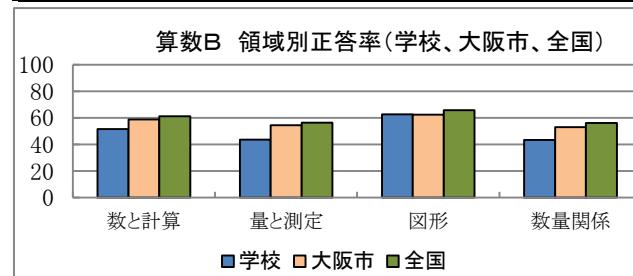
A問題、B問題ともに大阪市および全国平均を下回っている。また、領域別では特にA問題では「数量関係」、B問題では「量と測定」「数量関係」に課題がある。

児童質問紙の「算数の勉強は好きですか」の問い合わせ、「当てはまる・どちらかといえば」を合わせても50%を大きく下回ってしまった。

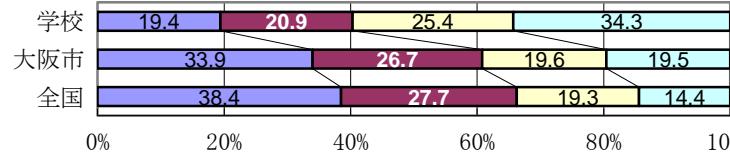
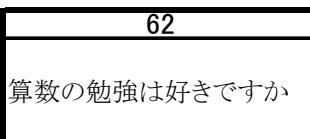
A 問 題		平均正答率(%)		
学習指導要領の領域等	学校	大阪市	全国	
	数と計算	8	74.8	80.8
	量と測定	3	67.6	71.8
	図形	4	61.0	70.0
数量関係	3	67.6	77.2	81.3



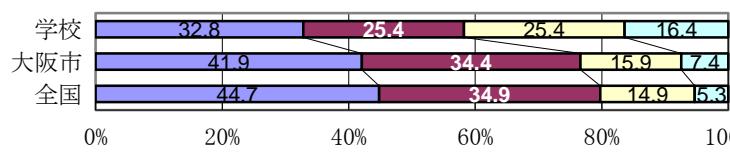
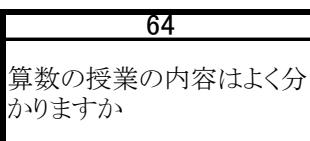
B 問 題		平均正答率(%)		
学習指導要領の領域等	学校	大阪市	全国	
	数と計算	8	51.5	58.9
	量と測定	5	43.6	54.4
	図形	1	62.7	62.5
数量関係	5	43.3	52.9	56.2



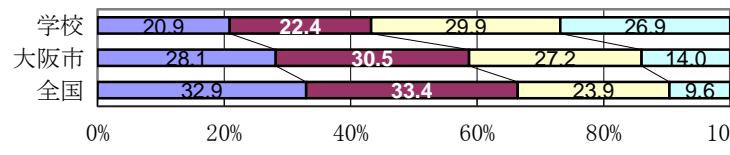
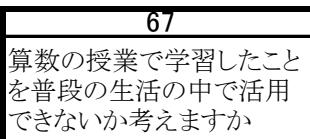
### 算数に関する「児童質問紙」



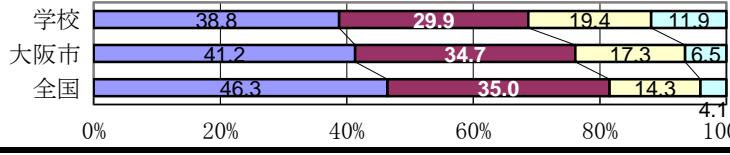
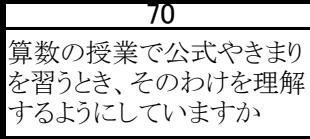
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

**成果と課題**  
反復学習などで加減のみや乗除などの単純な計算問題を解くスピードや正確さは身についてきたが、四則の混在した計算については確実とは言えない。また、数量関係において、示された情報を整理し正しく解釈したうえで、順序だてて解を求めていく力に課題がある。

### 今後の取組

算数は楽しい、よくわかるという児童を増やすために、教材や教具の工夫、言語活動を取り入れた授業展開など指導方法の工夫が必要である。また、基礎的・基本的な力の定着を図るために計算の反復学習や、学習した事柄を自分の生活の中で活用する力を育む学習指導が必要がある。

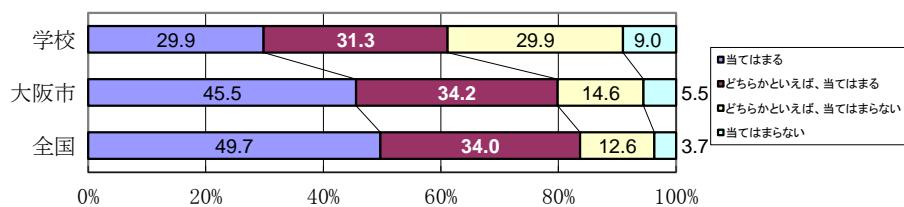
## 学びの充実に向けて(1)

### 結果の概要

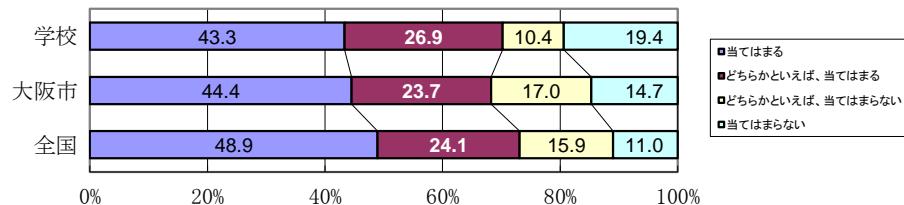
「5年生までに受けた授業では、自分の考えや発表する機会が与えられていたと思いますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて61.2%、また、「学級の友だちとの間で、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて47.7%と、ともに大阪市および全国平均を大きく下回っている。「読書は好きか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせると70.2%と、大阪市平均を上回っている。しかしながら、「当てはまらない」が19.4%と課題もある。

質問番号	質問事項
------	------

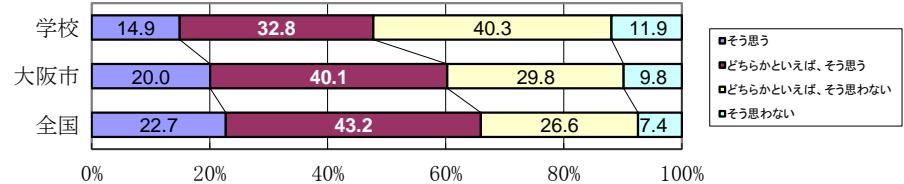
42
5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



48
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



### 成果と課題

読書活動については、朝の「絵本の読み聞かせ」や週1回の図書の時間により、読書好きは多いが、「当てはまらない」の約20%の児童を読書好きにしていく必要がある。また、普段の授業で自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思っていない(市・全国平均より高い)ため、今後は、グループでの話し合い活動、協働学習といった授業形態の工夫が必要である。

### 今後の取組

読書については引き続き現在の活動をベースに、図書委員会による本の紹介ポスターの取組、図書だよりの発行、ゲーム性を持たせた図書の貸し出しなど工夫していきたい。さらに、国語科を中心とした言語活動の充実を図る研究も進めていき、あらゆる教科で授業実践ができるよう取り組んでいきたい。

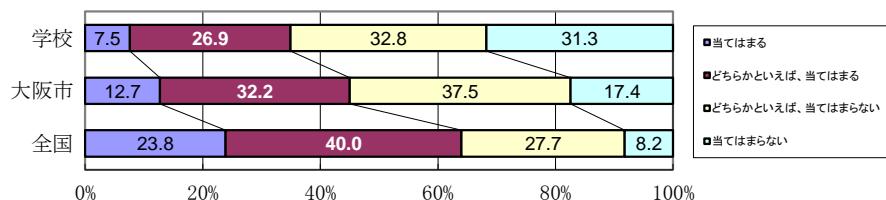
## 学びの充実に向けて(2)

### 結果の概要

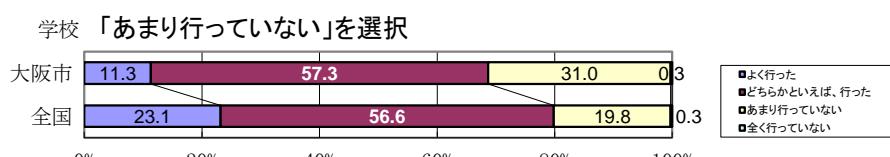
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて34.4%、また、「5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の質問でも「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて52.2%と大阪市および全国平均を大きく下回っている。

質問番号	質問事項
------	------

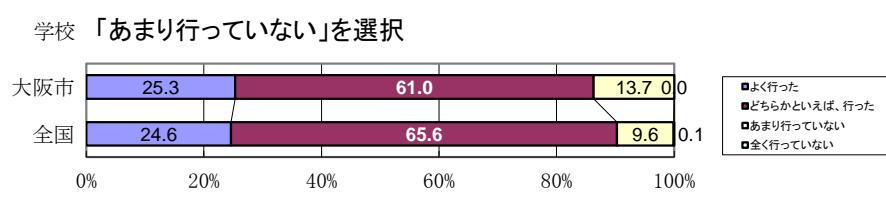
**40**  
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



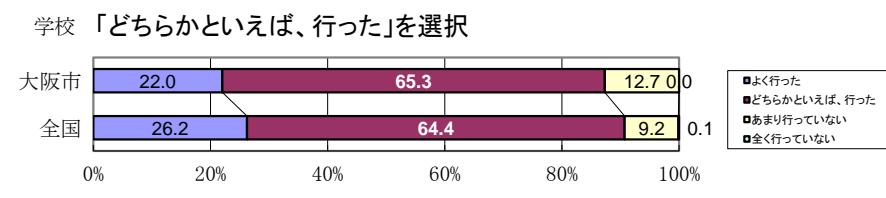
**42(学校質問紙)**  
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



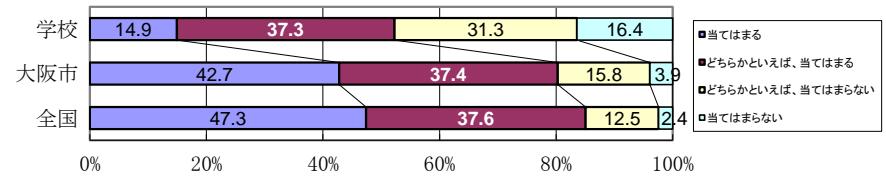
**30(学校質問紙)**  
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



**41(学校質問紙)**  
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



**43**  
5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



### 成果と課題

総合的な学習の時間では、年間を通じての学習計画から、3年生から6年生へと児童の発達段階に応じた系統立てた学習計画の作成が必要である。また、文章に書かせる指導は継続的に行ってきたが、感想文や説明文、自分の意見を書くことは難しいと思う児童が多く、今まで以上に文章をまとめて書くという指導が必要である。

### 今後の取組

総合的な学習の時間では、探究の過程を意識した活動を行い、さらに、学習した内容を実生活に生かせるような題材を工夫したい。また、話し合い活動が活発になるよう、ワークシートの工夫やOHC・プロジェクタの活用などを推進する必要がある。さらに、各教科・各单元の中で言語活動が効果的に学習活動に機能する場面の研究・検証が必要である。

## 基本的生活習慣

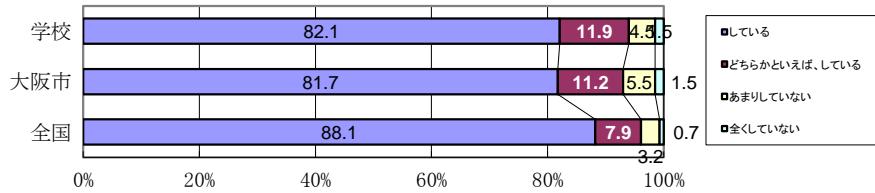
### 結果の概要

基本的生活習慣については、ほとんどの児童がきちんと朝食を食べている。また、全国平均を下回っているが、約8割の児童が同じ時刻に起床できており、約7割の児童が同じ時刻に就寝できていた。しかし、携帯電話やスマートフォンの使用については、普段1日あたり3時間以上が約2割、2時間以上が約3割と市ならびに全国平均に比べて高いものとなった。さらに、ゲームをしている時間も、3時間以上が2割強、2時間以上が4割弱と全国平均に比べて高いものとなっていた。

### 質問番号 質問事項

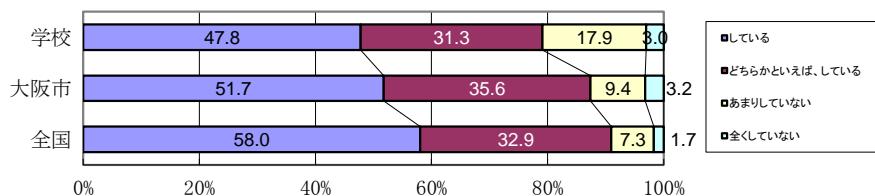
1

朝食を毎日食べていますか



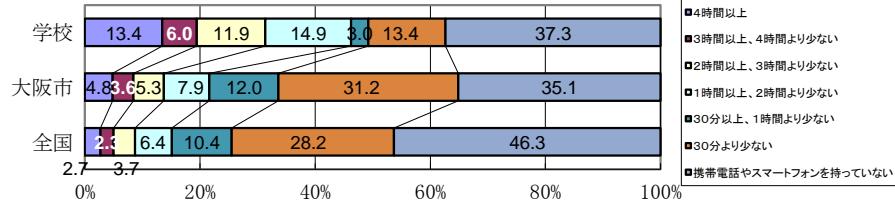
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



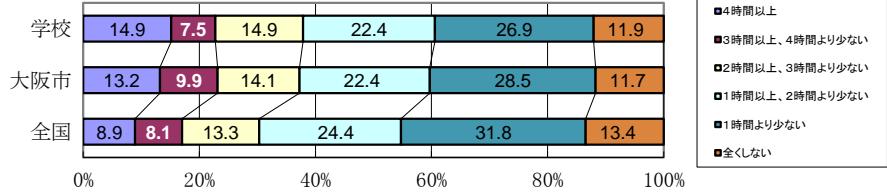
13

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



### 成果と課題

「早寝、早起き、朝ごはん」や「朝食の大切さ」を食育指導や保健だよりなどで、児童のみならず各家庭にも啓発活動を行った成果と考えられる。ただし、携帯電話やスマートフォンの所持率も高くなってしまっており、デジタルゲームをしている時間やメールやLINEで情報を交換している時間が長くなっているのが課題である。就寝時間の後退も気になるところである。

### 今後の取組

朝食の完全摂取や、定時の起床・就寝時間の推進も含め、今後も学校において適宜、指導していくとともに、家庭とも連携を取りながら基本的生活習慣の確立に向けて取り組んでいきたい。また、携帯電話やスマートフォン依存症についてや情報モラル教育についても関係諸機関と連携しながら進めていきたい。

## 家庭学習

### 結果の概要

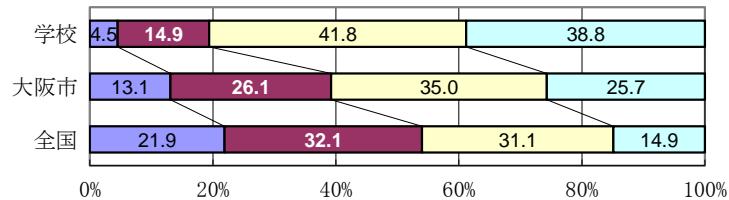
「家で、学校の授業の復習をしていますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて19.4%、また、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて35.8%と、ともに大阪市および全国平均を大きく下回っている。さらに4割弱の児童が復習を「全くしていない」ことは課題である。

学校以外での学習時間(学習塾や家庭教師を含む)については、普段1日あたり2時間以上が約2割5分と全国平均並み、1時間以上が大阪市平均並みであるが、全くしない児童が7.5%もあり課題である。

質問番号	質問事項
------	------

24

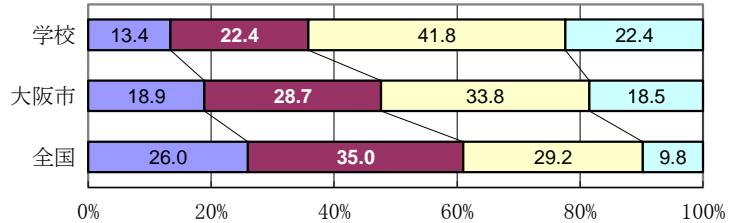
家で、学校の授業の復習をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

21

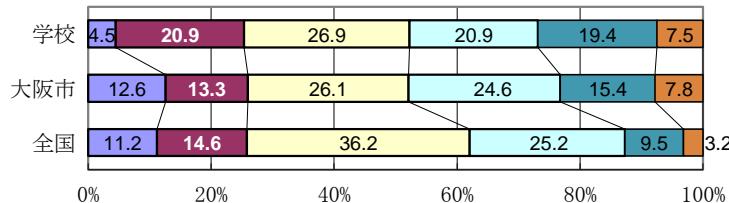
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

14

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

### 成果と課題

担任のきめ細やかな指導と点検で、宿題については「している・どちらかといえば」を合わせると94%の児童ができる。しかしながら、学校の授業の復習のみならず、予習についても22.4%しかできておらず、全くしない児童も44.8%いる。家庭において自らが計画を立てる自主学習が課題である。

### 今後の取組

担任と家庭が連携を深め、家庭における宿題を含めた予習や復習などについての協力体制をより一層強化していく必要がある。また、自分で計画を立てて予習・復習を行っていくことは知識の定着や学力の向上につながるということ、予習・復習とは具体的にどのような学習を進めていくのかを指導していく必要がある。

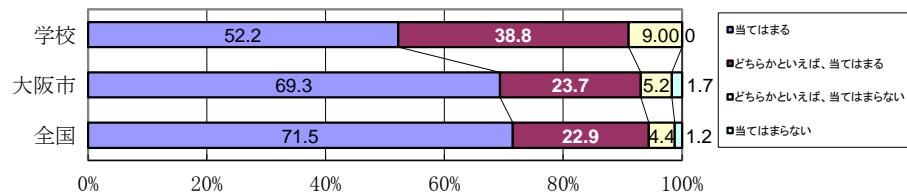
## 自尊感情・規範意識

### 結果の概要

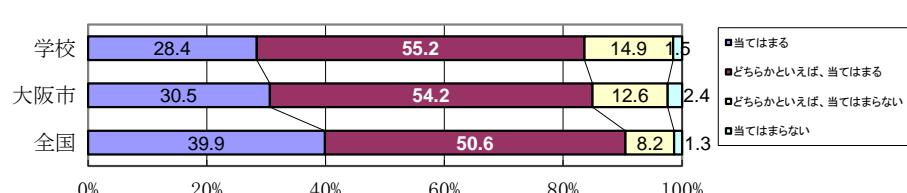
「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて91%、また、「学校のきまりを守っていますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて84.6%と、大阪市および全国平均よりは低いが、高い値となっている。しかしながら、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて44.8%、また、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて40.3%と、ともに大阪市および全国平均を大きく下回っている。さらに、どちらの質問も「当てはまらない」の割合が多いのが課題である。

質問番号	質問事項
------	------

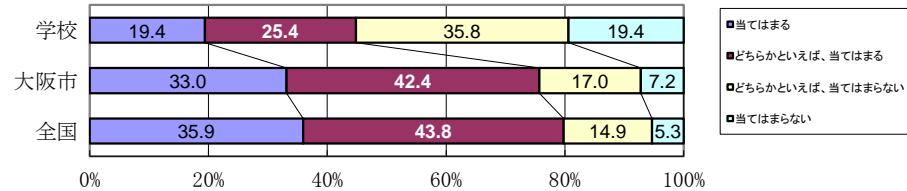
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



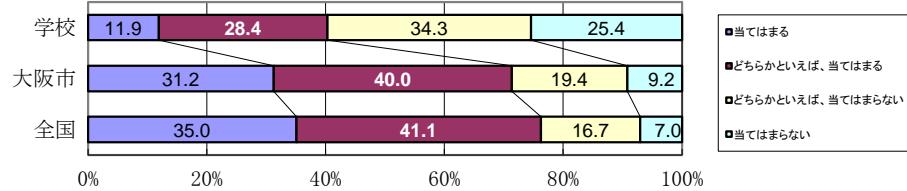
34
学校のきまりを守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



### 成果と課題

達成感・成就感を育むための体験的な活動を学習活動に取り入れては来ているが、まだ、十分とは言えない。検証を進めながら、今後の学習活動を厳選していかなければならない。また、先生方がより多くの時間を子ども達と触れ合えるよう、校務のICT化も含め、効率化を図っていきたい。

### 今後の取組

今まで以上に学習規律が身に付けられるよう、低学年時より継続的に系統立てた指導を行っていく必要がある。また、各担任が子どもとの日々のふれあいの中で信頼関係を深め、個々のがんばりを声に出して認めてあげ、自己肯定感・自尊感情を高めていく必要がある。

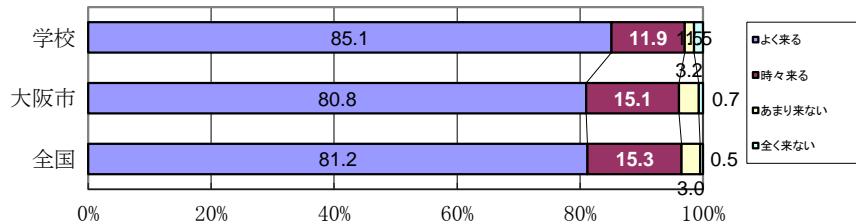
## 学校・家庭・地域の連携

### 結果の概要

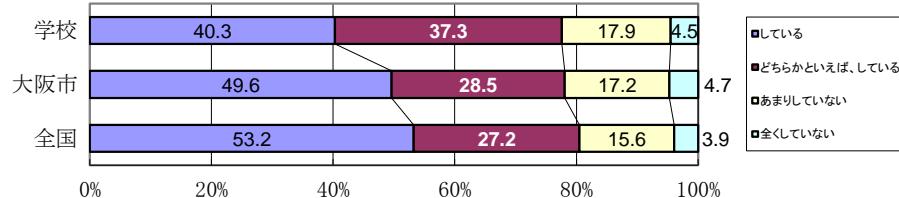
「家の人は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて97%と非常に高く、大阪市ならびに全国平均を上回っている。しかしながら、「家の人と学校での話をしますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて77.6%と大阪市および全国平均を少し下回っている。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか」の質問では、「当てはまる、どちらかといえば」を合わせて43.3%と、大阪市および全国平均を大きく下回っている。

質問番号	質問事項
------	------

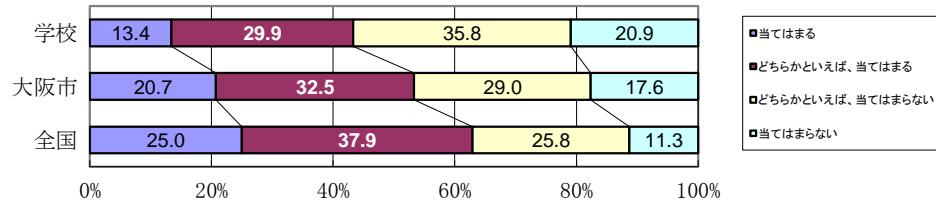
20
家人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか



### 成果と課題

保護者の方や地域の方が学校に対して高い関心を持ってくださっている。この現状を維持していくために、今後も積極的に情報を発信し、共有化していくなければならない。また、高学年になると難しくはなるが、それらの情報をもとに家庭での会話が少しでも多くなるように家庭との連携も必要である。さらに、新聞を読んだり、ニュースを見たり社会に关心が向くような指導も必要である。

### 今後の取組

保護者や地域にとってより開かれた学校となるよう、「学校だより」「学年だより」「学校ホームページ」などで、学校の取組や子どもの様子を伝えていきたい。また、保護者の方や地域の方が学校に足を運んでいただける授業参観を含めた学校行事を増やしていきたい。さらに、地域行事にも子ども達が多く参加できるよう、地域と連携して啓発していきたい。

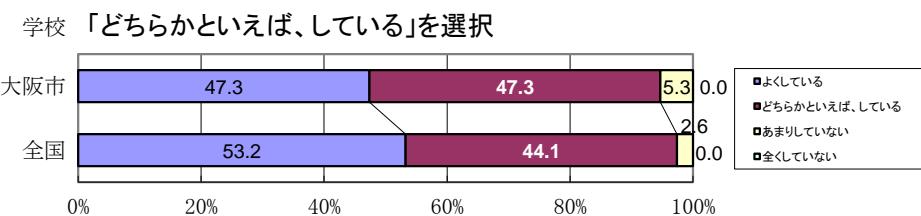
## 学校組織の改善

### 結果の概要

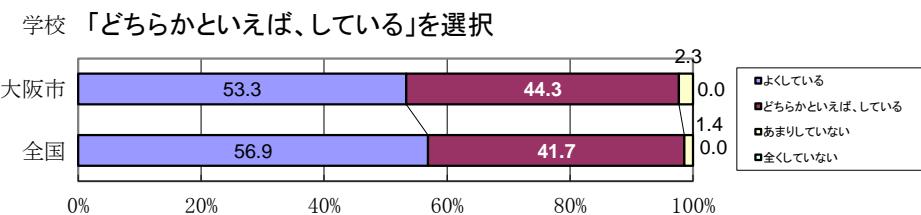
学校質問紙における「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」、「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか」については、本校としては「どちらかといえば」に回答したが、大阪市の状況は全国を下回っている。また、「授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか」では、本校としては「年間5回～8回」に回答したが、これについては全国を大きく上回っている。

質問番号	質問事項
------	------

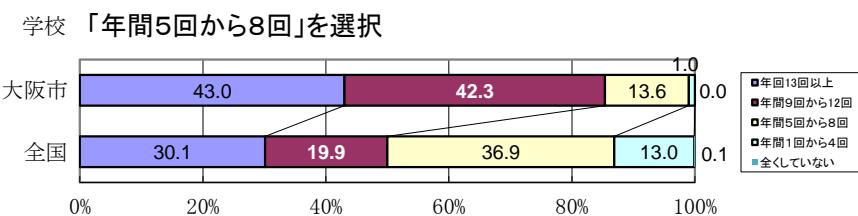
100【学校質問紙】
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



98【学校質問紙】
学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



91【学校質問紙】
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



### 成果と課題

学校の教育目標の達成を目指し、「運営に関する計画」における4つの視点ごとに部会を設け、全教職員で目標設定や取組内容、指標の検討など検討してきた。様々な教育活動を進めるに当たり、「運営に関する計画」を常に意識して取り組んでいく必要がある。また、授業力の向上のために、昨年度以上に校内研修会の充実・活性化を図るために研修部を中心に検討が必要である。

### 今後の取組

「運営に関する計画」では10月末に中間評価を行った。年度目標達成に向けて現時点での進捗状況から下半期の取組を充実していく必要がある。また、今年度より本校の研究テーマを「言語活動の充実」に定め、言語活動を専門に研究されている大学教授を招聘しての研修会も行っている。さらに、授業力向上のため、本年度は全ての先生方が授業公開を実施し、互いにアドバイスを出しながら高め合えるように取り組んでいる。